

キャリア教育に一石を投じた「**創造性教育**」で 9割が**総合・** **学校推薦型選抜突破**



ライブ感とリアリティのある先端ICTを活用した効率的な授業

第15回文部科学省キャリア教育優良学校（2022年度）に選ばれ、大臣表彰を受けた瀧野川女子学園中学高等学校。受賞理由は創造性と起業家精神を育む独自の「創造性教育」にある。年内現役合格率80%以上という大学進学実績と連動する「創造性教育」について山口龍介副校長に伺った。

国際標準の創造性教育を 早期から導入

「2010年から現在の創造性教育につながる教育を進めてきましたが、当時はその教育の意義をなかなか理解してもらえませんでした」と語るのは山口副校長だ。しかし、2021年度の大学入試改革時に、総合型選抜で前年比4倍の合格実績をあげて注目を浴びた。そのなかには超難関大学も含まれる。2023年度入試でも12月までに東京理科大や東京薬科大などに合格者を出し、94%が総合型や公募を含む学校推薦型で突破。同校の快進撃は止まらない。

この結果は、他校に先駆け、国際標準を見据えた教育にシフトしていたからだ。世界では、スタンフォード大学やMITなど先端大学が取り入れてきたデザイン思考による創造性と起業家精神を育む教育が拡充されて久しい。いわば、仕事につながる新しい技術や価値を生み出す人材の育成だ。大学入試改革は、まさにこうした世界

の動きを捉えたもので、偏差値を偏重してきた従来の入試制度から脱却しようとするものである。瀧野川女子学園が時代を先読みして、早期から改革を行ってきた教育によりやうく大学入試が追いついたのだ。

同校の創造性教育は、中高6年間にわたって行う必修授業である。中1から段階的に、チームで新しい商品や仕事を創出するための素地を固めていく。高2の「事業化実習」はその集大成だ。模擬企業をつくり、マネジメント、財務会計、マーケティング、製造に分れて生み出す新商品を学園祭で販売し、決算報告まで行う。その商品をもって、修学旅行先のハワイ大学でチャリティバザーも主催。模擬企業だけでなく他校でも実施しているだろう。しかし、同校で特筆すべきは創造性教育の手法が全教科に浸透し、教科の枠を超えてフィードバックされるということだ。

黒板の無い教室で 2倍速のICT教育を展開

同校の創造性教育は、先駆的に始めたICT教育に支えられている。2019年度から黒板に代えて4K大画面のモニターを導入し、現在は1教室3台のモニターで学習を展開。全生徒がiPadを所有し、クラウドスペースでリアルタイムに双方向授業を行う。

板書の無い授業のスピードは2倍速となり、議論を中心としたライブ感あふれるものとなった。肝要なのは、その指導を全教員ができること。そのため、緊急事態宣言下にも他校が対応に追われるなか、オ

ンライン授業をすぐに実施できただけでなく、すべてが通常の時間割通りに行われた。

また、生徒たちは課外でも日常的にiPadで情報を共有して活動する。そのため、大学でも企業でもグループワークをリードできる。ただそれは、1人で強引に引っ張る力ではなく、フォロワーシップをもってチームで試行錯誤し、新しいものを創り出す力だという。

「従来の授業は、基礎から始めて少しずつステップアップし、学期末に解説するというもの。これでは、なぜその教科を学ぶのかわからないですよ」と山口副校長。「大人はこれがやりたいと思ったら、そのために何をすべきか考えます。それが10代のうちからできるようになるのが創造性教育です。頭だけでなく全身で体験することで、直感的に実社会とのつながりを感じられるようになり、勉強がおもしろくなってきます」

技術革新の速度が上がり、数年先には今ある仕事や技術が消えているかもしれない現代社会において、自分で新しいものを生み出せる力は大きな強みだ。「本校での学びはハードワークですが、それを『楽しい』と言ってもらえるのがうれしい。ぜひ好きなことに思い切り挑戦しながら、一生ものの力をつけてください」



皆で会社を創り起業を体験する「事業化実習」

